



2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦

AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

---

6月1日(土曜日) 天候:雨 路面:ウエット

公式予選/2'03"674 6番手

6月2日(日曜日) 天候:雨 路面:ウエット

決勝/7位(16周)

開催地:大分県・オートポリス

入場者数:19,980人(土・日合計)

シリーズ第3戦が大分県・オートポリスで行われた。JSB1000クラスは、前回の第2戦に続き、スーパーフォーミュラとの2&4レースとして開催となった。

TOHO Racing with MORIWAKIのHonda CBR1000RRには、事前テストから新しいスイングアームを投入。一発タイムでは、まだ課題が残っていたが、アベレージでは、プラスになる部分が多く、レースウィークには、Tカーにも新しいスイングアームを装着。今回のオートポリスラウンドはもちろん、TOHO Racing with MORIWAKIとして最も力を入れる鈴鹿8耐に向けても車体のセットアップを進めていく。

金曜日のA.R.T.合同走行は、ドライコンディションとなり、事前テストからの課題をこなし、マシンを仕上げていく。オートポリスは、山口が得意としているコースであり優勝経験もあるだけにチャンスを切り開いていきたいところだ。初日は、1分50秒045がベストタイムとなり7番手につけた。



**TOHO**  
Racingwith **MORIWAKI**  
MORIWAKI RACING

2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦

AUTOPOLIS SUPER 2&amp;4 RACE

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

土曜日は、天気予報通り雨となりロックアウト方式で公式予選が行われた。まず30分間で行われたQ1では、レインコンディションでのセットアップを進めながらセッション終盤にアタックし5番手で最終セッションとなるトップ10チャレンジに進出。トップ10チャレンジは、雨足が、時間を追うごとに強くなったためセッション開始直後に決まる結果となる。不完全燃焼な予選となったが、それでも6番手につけ2列目からスタートすることになった。

決勝日も朝のウォームアップ走行は、しっかり雨が降っていたものの、JSB1000クラスのスタートするころには、雨は止み、路面は所々乾いた部分があった。山口は、グリッドにつくサイティングラップで履いているタイヤでは、戦えないことを判断。グリッドで、もうワンランクハードなタイヤに交換。それに合わせてサスペンションもアジャストしてスタートした。実は、このタイヤを履くのは、このときが初めて。皮むきもしていなかったため序盤は、その感触を確かめながらの走行となっていた。オープニングラップで9番手まで下がるものの、そこから徐々にペースアップ。6周目にはヨシムラの津田選手をかわして5番手に浮上すると、9周目にアズラン選手をかわして4番手に浮上する。

しかしレース終盤に山口を上回るペースで追いついてきたライダーにかわされ7位となってしまったが、ベストラップで見ると2位となった秋吉選手より速く、グリッドでタイヤを交換したことが間違っていないことを証明した。

また、TOHO RACING CLUBからST600クラスにエントリーした宮嶋佳毅が大活躍。土曜日、日曜日とそれぞれ1レースずつあり、予選5番手グリッドからレース1では、レース終盤にファステストラップをマークし、3位に入賞。うれしい全日本初表彰台を獲得した。レース2もいいペースで追いついていたが、コースアウトを喫し、そこから再び追いついて14位でゴール。事前にオートポリスの地方選手権に参戦し、今回のレースに向けて準備してきた成果が実った結果となった。





## AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

---

### ライダー 山口 辰也コメント

「サイティングラップで路面が乾いている部分がありタイヤが最後までもたないのが分かったので、履いたことがなかったのですが、もうワンランクハードなタイヤにグリッドで交換しました。タイヤの皮むきもしていなかったので、レース序盤はペースを上げることができませんでしたが、ベストラップは、2位になった秋吉選手と、ほぼ同じでしたから、チョイスは間違っていないでした。結果は悔しいですが、レース内容は悪くなかったと思います」

### チーフメカニック／戸井田 剛コメント

「もう少し前に行きたかったのですが、レース後半は路面が乾いてしまい厳しい状況でした。決勝では、初めて履くタイヤを使いましたが、優位性が分かりましたし、収穫は多かったですね。現状ではベストに近いレースができたと思います。事前テスト 2 日目から使っているスイングアームも今回は T カーにも装着し、いい感触を得ています。ただ、まだオートポリスでしか走らせていないので、次回の筑波、そしてチームとして最重要項目である鈴鹿 8 耐に向けてマシンを仕上げていきたいですね。今回は、8 耐と一緒に戦ってくれる伊藤真一選手もアドバイスをしてくれたので、とても助かりました」



株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

担当 野口